

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年5月24日(2007.5.24)

【公表番号】特表2006-523263(P2006-523263A)

【公表日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【年通号数】公開・登録公報2006-040

【出願番号】特願2006-509298(P2006-509298)

【国際特許分類】

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D	11/00	
B 4 1 M	5/00	E
B 4 1 M	5/00	A
B 4 1 J	3/04	1 0 1 Y
B 4 1 J	3/04	1 0 1 Z

【手続補正書】

【提出日】平成19年3月23日(2007.3.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

非水性ビヒクル中に着色剤を含む第1のインクと、
水性ビヒクル中に定着剤を含む定着用流体とを含むことを特徴とする、インクジェットインクセット。

【請求項2】

請求項1に記載のインクセットを支持層上に噴射するステップを含むことを特徴とする、支持層をインクジェット印刷する方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

(実施例2)

この実施例では、本発明のインクセットは、インクCおよび定着剤1からなる。試料を印刷する代わりに、攪拌せずに、インクCの液滴を約1mLの定着剤流体1の上に載せることによって定着作用を評価した。添加するとすぐに、非水性インクの上相は「反応し」て、極めて局在化した、非常に濃い青色の領域が多数形成された。これは、定着剤との接触によって、着色剤の安定性が崩れ、一緒に印刷すれば、着色剤は支持層上に固定されるはずであることを示唆している。

本発明は以下の実施の態様を含むものである。

1. 非水性ビヒクル中に着色剤を含む第1のインクと、

水性ビヒクル中に定着剤を含む定着用流体とを含むことを特徴とするインクジェットイン

クセット。

2 . 前記インクセットが、少なくとも 4 種の異なる有色インクをさらに含み、前記有色インクの少なくとも 1 種が第 1 のインクであることを特徴とする前記 1 に記載のインクセット。

3 . 前記第 1 のインク中の前記着色剤が、顔料および染料からなる群から選択されることを特徴とする前記 1 に記載のインクセット。

4 . 前記第 1 のインク中の前記着色剤が自己分散性顔料であることを特徴とする前記 1 に記載のインクセット。

5 . 前記非水性ビヒクルが、前記非水性ビヒクルの総重量を基準にして約 10 重量 % 以下の水を含むことを特徴とする前記 1 に記載のインクセット。

6 . 前記定着剤がイオン化できる成分であることを特徴とする前記 1 に記載のインクセット。

7 . 前記第 1 のインク中の前記着色剤が、顔料および染料からなる群から選択され、前記非水性ビヒクルが、前記非水性ビヒクルの総重量を基準にして約 10 重量 % 以下の水を含み、かつ前記定着剤がイオン化できる成分であることを特徴とする前記 2 に記載のインクセット。

8 . 前記 1 ~ 7 のいずれか一項に記載のインクセットを支持層上に噴射するステップを含むことを特徴とする、支持層をインクジェット印刷する方法。

9 . 前記第 1 のインクより先に、前記定着用流体を前記支持層上に噴射することを特徴とする前記 8 に記載の方法。

10 . 前記定着用流体の塗りつぶし領域が前記第 1 のインクの塗りつぶし領域より小さいことを特徴とする前記 8 に記載の方法。

11 . 前記定着用流体の塗りつぶし領域が前記第 1 のインクの塗りつぶし領域より小さいことを特徴とする前記 9 に記載の方法。